歌を歌うねこ

秋田県

むかし。

あるとき、おばあさんが、ひとりで留守番(るすばん)をしていました。おばあさんは、いろりにあたりながら、

「だれもいなくて、たいくつだねえ」と、ふと、ひとりごとをいいました。すると、そばにいたねこが、とつぜん口をきいて、

「おばあさん、おばあさん。それなら、おれが歌を歌って聞かせるから、だれにもいわないでください」といいました。おばあさんは、

「よしよし。だれにもいわないよ」といいました。すると、ねこは、とろっとするような声で歌を歌いだしました。まことに好い声でした。

そのうち、おばあさんの息子(むすこ)が畑から帰ってきました。家の近くまで来ると、家の中から何ともいえない好い歌声が聞こえてきました。息子は、外に立って、じっと聞いていましたが、やがて、声がやんだので、

「今帰ったよ」といって、うちに入りました。ところが、うちには、おばあさんのほかにだれもいません。

「おばあさん、おばあさん。今歌っていたのはだれだい」と、息子が聞くと、おばあさんは、

「ああ、わたしだ、わたしだ」と答えました。

「いいや、おばあさんじゃない。とっても好い声だったもの。だれなんだい」

おばさんも、はじめは黙(だま)っていましたが、息子があまりしつこく聞くので、とうとう、

「あのな、今、ねこが・・・」といいかけました。そのとたん、ねこが、ぱっとおばあさんに飛びかかって、のど笛をかみ切ってしまいましたとさ。

おしまい

村上郁再話

資料『旅と伝説』「鹿角郡昔話」内田武志／三元社